

令和4年度

「全国学力・学習状況調査」の結果

この調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析するとともに、教育施策の成果と課題を検証しその改善を図るため、小・義務教育学校6年生と中学3年生・義務教育学校9年生を対象として、文部科学省が平成19年度より実施しているものです。

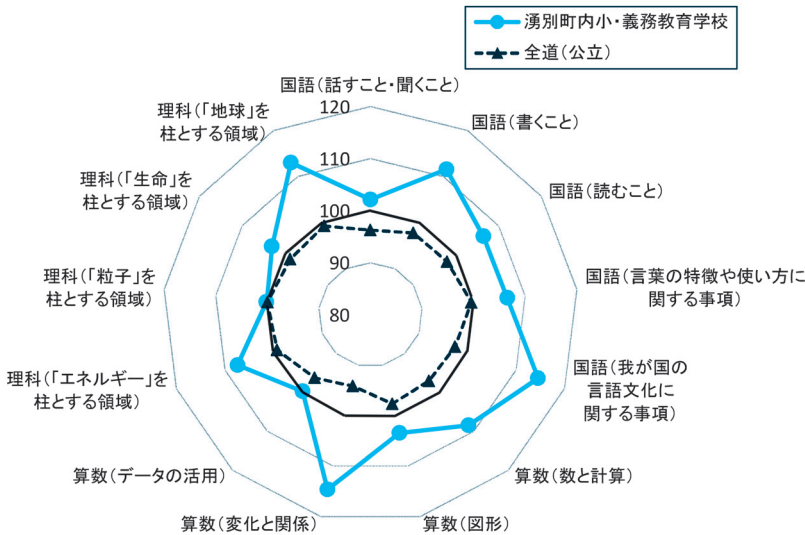
令和4年度は国語、算数・数学、理科の3教科で実施されました。調査結果から見た湧別町子どもたちの様子について、その概要をお知らせします。

湧別町内小・義務教育学校の状況および学力向上策（学校数：5校）

小・義務教育学校では、すべての教科で全国および全道平均を上回りました。

【教科全体の状況】

教科の領域別に **全国を100** とした場合の全道および湧別町の状況をレーダーチャート（グラフ）で示したものを（湧別町の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

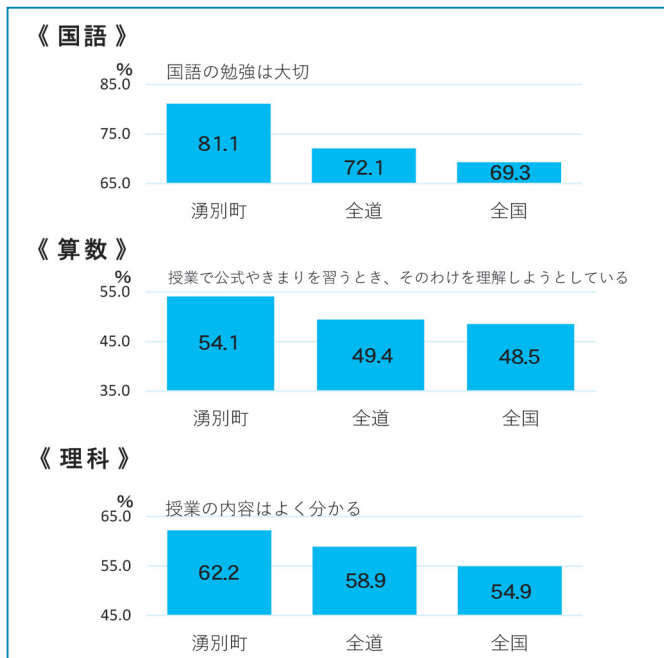


【湧別町の学力向上策】

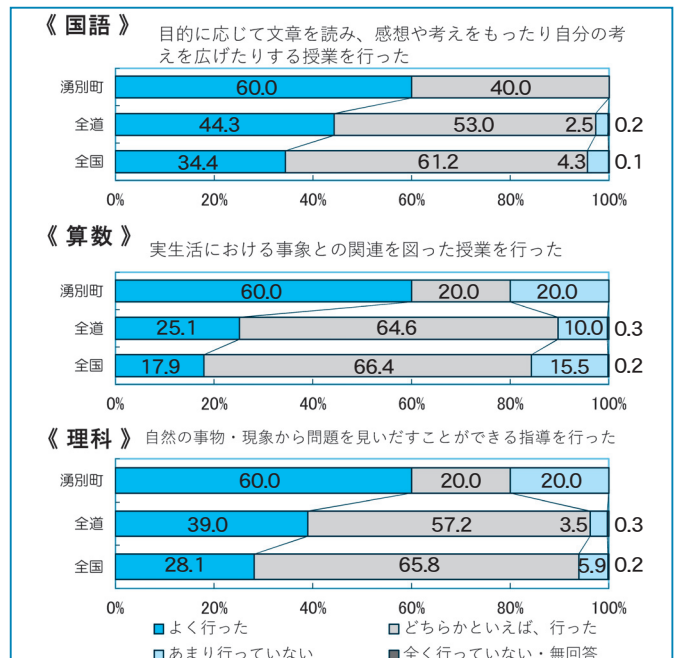
- 湧別町型学校力向上事業に基づく授業公開や研修事業の実施
- 全国学力・学習状況調査等を活用した授業改善や学習習慣の確立
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学び合いの授業やICT(情報通信技術)端末の効果的な活用
- 学力向上支援員や特別支援教育支援員等の配置の充実
- 長期休業を活用した高校生ボランティア学習サポートの実施
- 学校図書館支援事業による読書活動の推進



【児童 質問紙調査】



【学校 質問紙調査】



【分析】

- 国語の授業において、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業を行ったことにより、国語の勉強が大切と回答した児童の割合が全国および全道を上回るとともに、すべての領域で平均正答率が全国を上回ったと考えられる。
- 算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行うことにより、公式やきまりを習うとき、そのわけを理解しようとしていると回答した児童の割合が全国および

全道を上回るとともに、すべての領域で平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

- 理科の授業において、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行ったことにより、理科の授業の内容がよく分かるという回答した児童の割合が全国および全道を上回るとともに、すべての領域で平均正答率が全国を上回ったと考えられる。



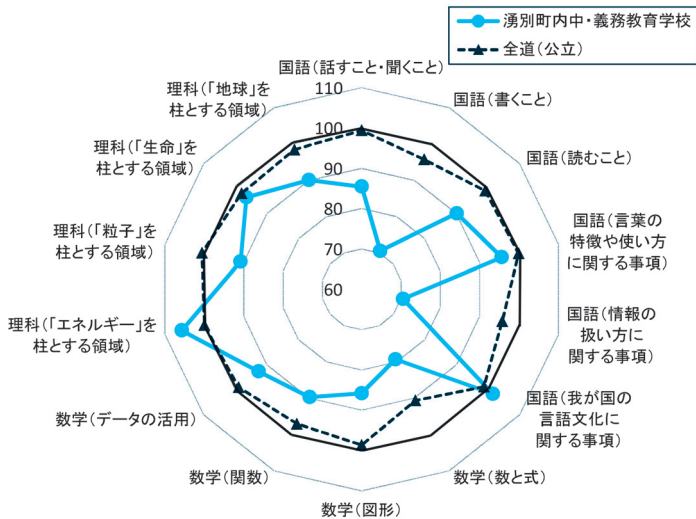


湧別町内 中・義務教育学校 の状況および学力向上策（学校数：3校）

中・義務教育学校では、国語と理科の一部で全国および全道平均を上回りました。

【教科全体の状況】

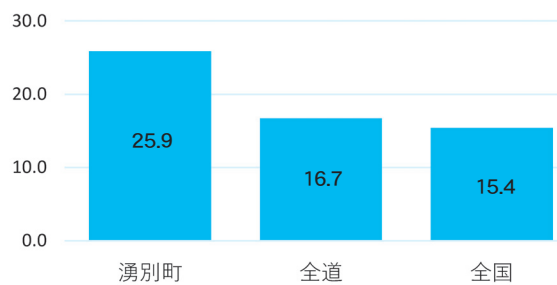
教科の領域別に **全国を100** とした場合の全道および湧別町の状況をレーダーチャート（グラフ）で示したもの
 （湧別町の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【生徒 質問紙調査】

《全般》

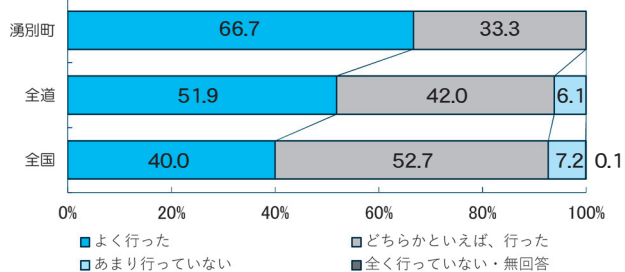
% 家で自分で計画を立てて勉強している



【学校 質問紙調査】

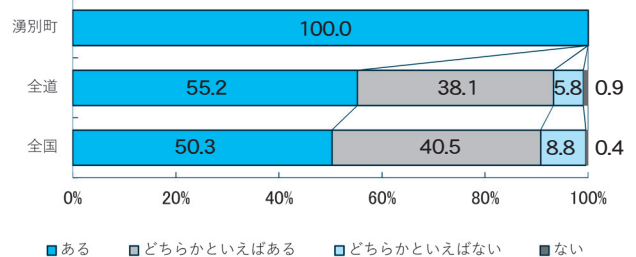
《全般》

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている



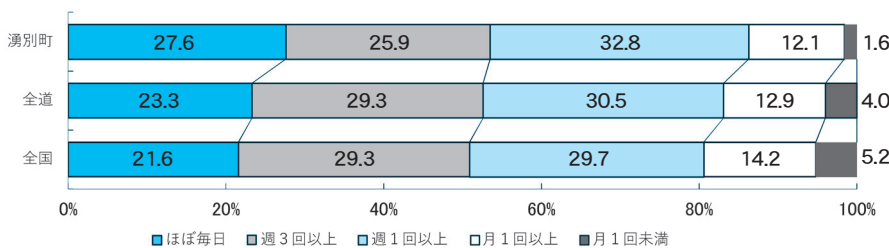
《全般》

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がある



《全般》

授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



【分析】

●町全体で、全国学力・学習状況調査を活用した授業研究や事例研究等、実践的な研修を行ったことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が図られ、生徒が主体的に学習に取り組み、自分で計画を立てて学習すると回答した生徒の割合が全国および全道を上回るとともに、国語では「我が国の言語文化に関する事項」、理科では「エネルギー」を柱とする領域で平均正答率が全国を上回ったと考えられる。

●町全体で、教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修を開催し、授業にICT機器を積極的に活用したことにより、授業で、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したと回答した生徒の割合が全国および全道を上回ったと考えられる。